

SDGs啓発・発信活動を得て ～私たちの学びを深める活動～

日本福祉大学国際福祉開発学部

千頭研究室

私たちの学び方

- 学生一人ひとりの関心のある分野、事柄を大切に
- 学生の個性を活かした研究、学び、学生らしい目線で
- SDGsを自分事にするためのしかけ

今日の発表の構成

1. 卒業論文でのSDGsへの取り組み
2. 中津川市加子母地区での地域に根差したローカルSDGsの構築の取り組み
3. SDGsの普及啓発にかかる取り組み

1. 卒業論文でのSDGsへの取り組み

2021年度 千頭ゼミ4年調査研究(1)

1時限目 「アフリカのSDGs達成に向けての現状と課題」

–「アフリカの村から～エリナ物語～」を出発点として–

2時限目 「SDGsの理念をツールとして活用した地域づくりのあり方」

～岐阜県中津川市加子母地域をモデルとして実証実験～

3時限目 「食・農を切り口にして考える地球環境」

～地球一個分の暮らしを目指して～

4時限目 「ボランティアで成り立つ日本語教室の課題」

2021年度 千頭ゼミ4年調査研究(2)

5時限目 「日本人的思考から考える食品ロスの現状と課題」

6時限目 「Uターン・Iターンにつながる要因分析」

～新城市を事例として～

7時限目 「私たちに求められるエシカル消費」

～アパレル産業の現状・課題から考える～

2. 地域に根差したローカルSDGsへの取り組み

「地域づくりのあり方」（岩崎研究より）

調査地：中津川市加子母地域

パートナー：むらづくり協議会
NPO法人かしもむら

調査目的：地域が直面する課題の見える化
横のつながり・連携の強化促進

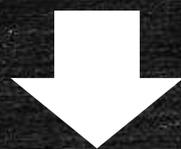
調査方法：アンケート、ヒアリングを実施
加子母版ローカルSDGsの作成



図 4-1 加子母の位置

出典:NPO 法人かしもむらより提供

- 地域の「過去」と「現在」における変化について
⇒ ヒアリング調査
- 地域の「望む未来像」について
⇒ アンケート調査
- 加子母独自の「活動」「取組」を再確認
⇒ 過去研究、資料



「目指すべき未来像」「地域の現状と課題」
「優先的に取り組むべき事項」を明確に

加子母版ローカルSDGs 3本柱

社会（地域経済に関する分野も含む）

地域づくりや地域産業の担い手や後継者を確保し、既存の産業・仕事の振興と新たな産業・仕事の開発による経済活動を行う。経済的な余力を獲得するとともに、資源を活用した循環型社会を構築していく。「加子母村（培ってきた伝統や文化）」を未来にも残していくことができる活発な地域を目指す

人育（地域社会のための人材育成）

持続可能な地域には、活躍する人材が必要である。「質の高い教育の実現」という昔から継続されている取り組みの維持と若者から高齢者までが学び、成長し続けられる環境づくりを行う。地域に関わる人々が交流・連携し、活躍を支援する。そして、すべての住民が生活に支障がなく、暮らしやすい地域を目指す。

環境

地域の約94%が山林である地域特性を活かし、自然の維持、自然と共存した生活を営んでいく。地球規模で発生している環境問題に目を向け、知識向上とできる行動を起こす。目の前にある環境資源に対し、地域独自の取り組みを行い、豊かな自然があり続ける地域を目指す。

加子母版「持続可能な開発目標」 ～14の目標と、59のターゲット～



1. 質の高い教育をこれからも



2. 加子母のむらづくりを



3. すべての人を守るふ・く・し



4. 生活のための強い基盤を



5. 加子母にあった産業発展



6. 老若男女が活躍できる地域に



7. 地産地消！有効活用！



8. 「加子母村」を未来にも



9. エネルギー開発と川をきれいに



10. 森林に誇りと関心を



11. 地球のために1歩ずつ



12. 加子母から中津川市へ



13. すべての人暮らしやすい地



14. みんなで協力・みんなで創る

各活動×SDGs

地域での様々な活動は、SDGsとの関係性を意識して展開されているわけではない。



しかし、直接的ではないにせよ、地域での1つ1つの行動・活動がSDGsの目標達成に実は貢献していることがわかる。



外部者の目線から、地域での活動に、SDGsにつながる位置づけを付与することで、活動のさらなる発展につながっていくことを期待。

3. SDGsの普及啓発にかかる取り組み

3-1. 市民向けのSDGsポスターの制作と東海市内の公共施設での掲示

学生目線で、SDGsの意味と意義を市民に伝えたい

8種類のSDGsポスターを制作

市内のすべての公民館・市民館や主たる公共施設で掲示

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



アンケートにご協力をお願いします！

シールを貼って答えてね！

① SDGsを知っていますか？

- 内容を理解している
- ロゴを見たことがあるが、内容はわからない
- 初めて見た

② SDGsのイメージは？

- 私たちの生活に身近なもの
- 海外や発展途上国についてのもの
- わからない

アンケートにシールを貼って回答することで関係性をつくる

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう！プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。



「東海市×SDGs」SNSアカウントです！ぜひフォローお願いします！

国別男女平等ランキング 日本は153カ国中121位

突然の豪雨、異常な暑さ、これが危険なサイン

日本の森林は減少していない！でも森林資源が使われていない！

企業・市民・自治体・行政との連携を

私たちに電力会社を選ぶ権利がある

災害に備えた生活の基盤を

安全で栄養のある食料をみんなに

気づくことが大切、世の中の不平等

学費が払えたら、進学できたのに

マグロが食べられなくなるって本当!?

タバコによる超過死亡者数約12万人/年
交通事故による死亡者数約3300人/年

今、働いている環境は、大丈夫？

安心安全な水は、豊かな自然から

買う・捨てるを慎重に

自分のまちを知るところから

情報公開と民主的な意志決定を

日本では7人に1人が貧困

～まずはあなたが知るところから始めよう～

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう！プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業費補助金を使用しています。

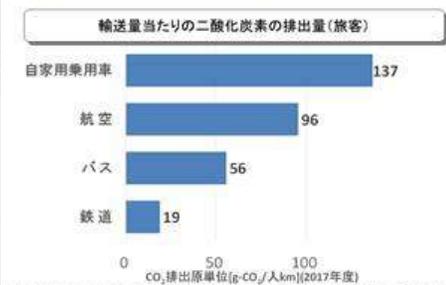
「東海市×SDGs」SNSアカウントです！ぜひフォローお願いします！

SDGsを合言葉に！No.3

日本福祉大学
国際福祉開発学部
千頭ゼミ 三年



見直しませんか？ 車に乗る回数



一人1km当たりのCO₂排出量は**自家用乗用車**が一番多いです。車の使用頻度を減らすことは、様々な環境問題を解決するための第一歩です。また、そうすることで健康な生活にも繋がります！！

コンビニまで
歩こっと！

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう！プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。



SDGsを市民の合言葉に！NO.4

日本福祉大学
国際福祉開発学部
千頭ゼミ 3年



こどもを大切に育てることも SDGsの1つです！

東海市には、約2万人ものこどもがいます。少子化が進む日本では、こどもは貴重です。1人1人のこどもによって未来の東海市が創られます。**あなたの周りにいるこどもの未来のために何ができますか？**

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう！プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。



SNSアカウントもぜひフォローお願いします！
Instagram ← Facebook →





“もったいない” その気持ち大切です

NO MORE 食品ロス！



今の日本では、まだ食べられるのに捨てられている食品が年間612万トンもあるのが現状です。これは国民一人当たり換算するとお茶碗1杯分の食べ物が毎日捨てられていることとなります。世界には食糧が手に入らない人たちもたくさんいます。“もったいない”の気持ちを当たり前にしていきましょう！

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう!プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。



TOKAISHI.SDGS



毎年どれだけの服を 買っていますか？

日本では、年間約100万トン（33億着）の洋服が廃棄されています。1着の服を作るために大量の水が使われ、CO2が排出されています。

大量生産、大量消費による環境への負担を減らすために、流行にとらわれず、長く着れる服を選びましょう。

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう!プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。



TOKAISHI.SDGS



どんな未来に
ワクワクしますか？



私たちは、SDGsが提起する課題解決に向けさまざまな問いかけをしてきました。
SDGsは2030年までに世界が達成すべき目標です。
10年後、どんな社会になっているのでしょうか？どんな社会を期待しますか？
今の行動の1つ1つが、未来の姿につながります。

私たちは「SDGsを市民の合言葉にしよう！プロジェクト」を進めています。この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。



持続可能な社会とは？

～10年後に限らず、30年後、50年後を 一緒に考えましょう！～

子ども世代の将来は？

～SDGsのその先を 一緒に考えましょう！～

ぜひあなたの
お考えやご意見を！
聞かせてください



Facebook

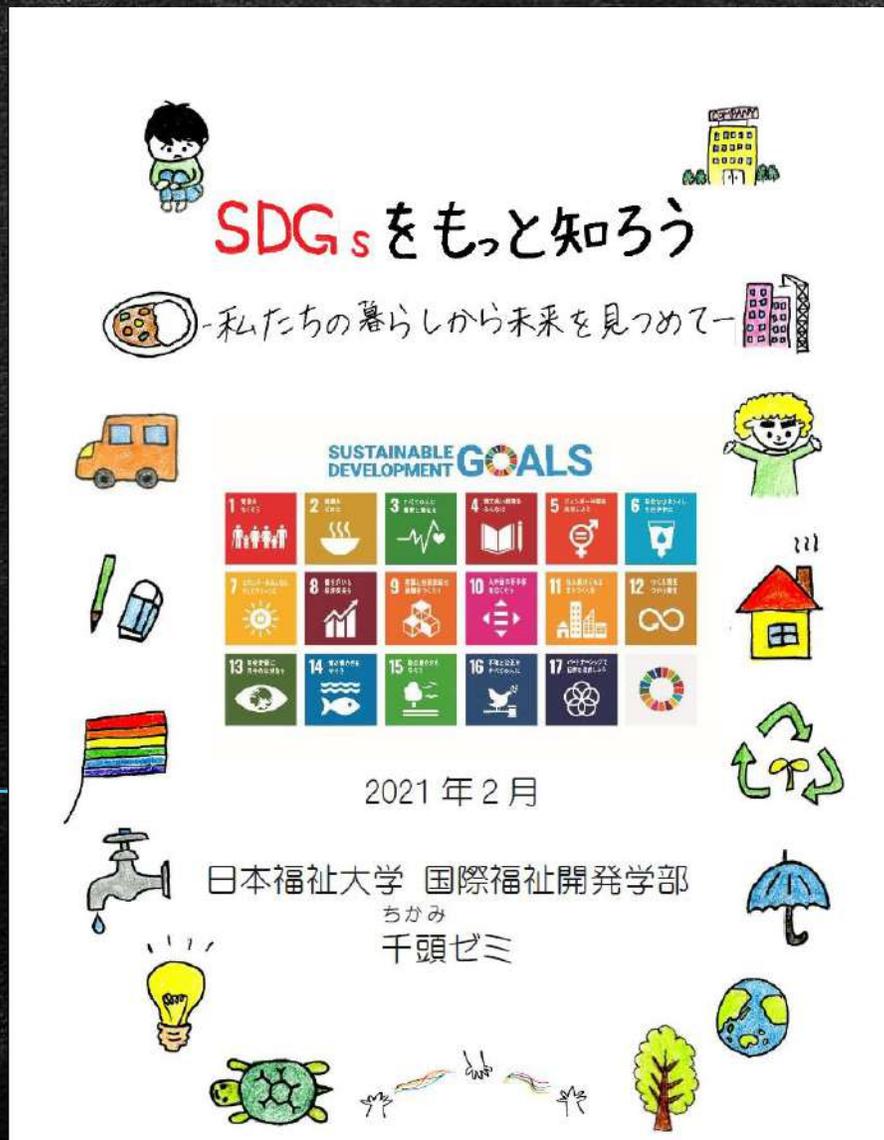


Instagram

私たちは今年度いっぱい東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用させていただき、「SDGsを市民の合言葉にしよう！プロジェクト」を進めてきました。少しでもSDGsを知っていただき、興味を持っていただけたら嬉しいです。SDGsの課題解決には、私たち1人1人が、自分事としてとらえ、行動することが求められています。自分のできることから取り組んでいきましょう！

3-2. 学生路線で17のターゲットを読み解いたパンフレットの作成

学生の目線からみて、SDGsの17のターゲットを読み解いたパンフレットを1500部作成、配布

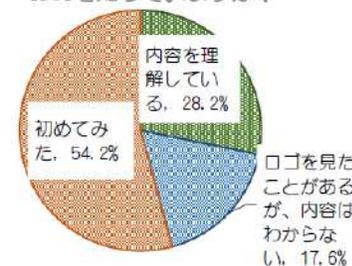


この活動は、東海市大学連携まちづくり推進事業補助金を使用しています。

ポスターアンケート結果

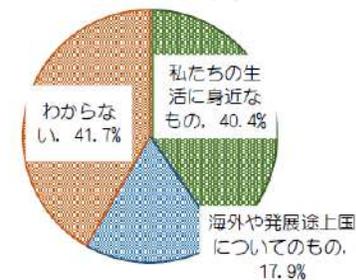
ポスター上でアンケートを行い、約400名の方にご回答いただきました。ご回答ありがとうございました。

SDGsを知っていますか？



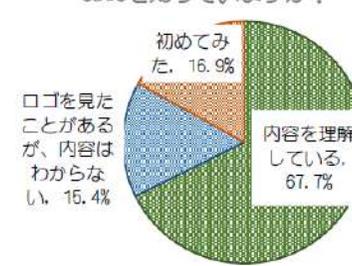
市内公共施設

SDGsのイメージは？



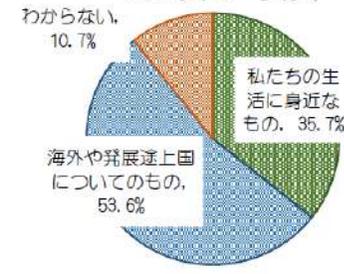
市内公共施設

SDGsを知っていますか？



日本福祉大学
東海キャンパス

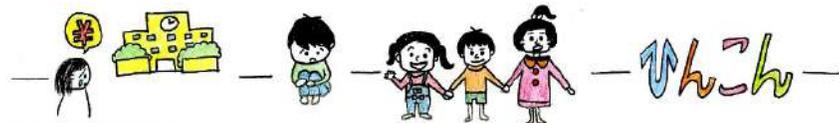
SDGsのイメージは？



日本福祉大学
東海キャンパス



アンケート回答はまだ募集中です。



SDG-1 貧困をなくそう

日本では七人に一人が貧困

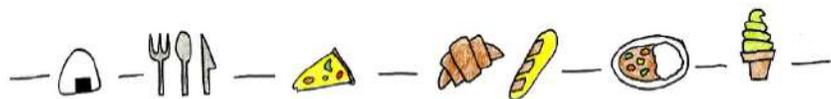
貧困って海外のことだと思いませんか？貧困世帯の子どもやひとり親世帯の困窮は日本でも大きな問題となっており、他人事ではありません。また、貧困問題は経済問題だけではなく、社会的な繋がりが欠如しているという問題でもあります。さらに教育格差や子どもの将来の所得格差にも繋がります。貧困問題を深刻化させないためには社会の繋がりを保ち、セーフティーネットを作ることが大事です。

SDG-2 飢餓をゼロに

安全で栄養のある食料をみんなに



最近、短時間で食事を済ませるために、コンビニやスーパーの弁当、サプリメントに頼っている人が増えています。これでは栄養バランスが偏りがちで、弁当に含まれる添加物や塩分を過剰に摂ってしまうことにもなります。また、サプリメントは、過剰摂取や薬との併用に注意する必要があります。一日30品目を目標にバランスのとれた食事を摂りましょう。



SDG-3 すべての人に健康と福祉を

たばこによる超過死亡者数約12万人/年
交通事故による死亡者数約3,300人/年

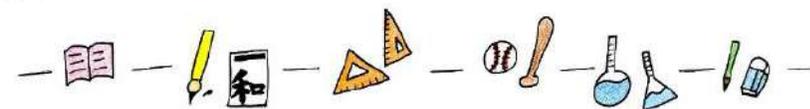
たばこによる超過死亡者数とは、たばこが原因で亡くなる人の数です。さらに受動喫煙で亡くなる人の数は約6800人といわれています。喫煙者は周りの人に気を配らなければいけません。道路交通違反の件数は年間約600万件にも及びます。いつ何時加害者にも被害者にもなる可能性があります。自分と周りの人の健康を守るためにこれくらい大丈夫と思わずに、責任ある行動をとるべきです！！

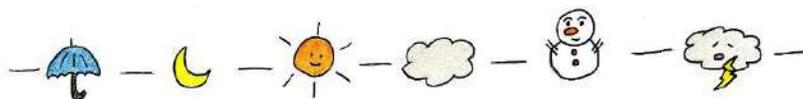
SDG-4 質の高い教育をみんなに

学費が払えたら進学できたのに



高校生の約7割が、経済的な理由から大学への進学を躊躇するという調査があるように、経済的な理由が教育格差をもたらしています。さらに、教育格差は学校教育にとどまりません。幼い頃から家庭の経済状況により塾や習い事などを受けられないことも教育格差です。経済格差と教育格差の負の連鎖が広がりつつあります。全ての子どもの学ぶ権利を保障していくことが社会に課せられた義務です。





SDG-13 気候変動に具体的な対策を

突然の豪雨、異常な暑さ、これが危険なサイン

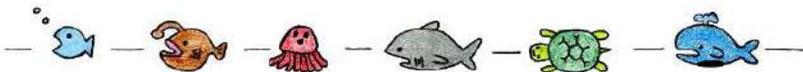
令和二年七月豪雨、日本各地での40度を超える猛暑など異常気象が毎年のように起こっています。このまま気候変動が続けば、農作物の生育不良や、土砂災害など大きな影響が予測されますが、それを「異常」と感じなくなるかもしれません。まずはCO₂削減のために節電すること、車に乗る頻度を減らすことから始めてみませんか？未来の気候を決めるのは、私たちなのです。

SDG-14 海の豊かさを守ろう

マグロが食べられなくなるって本当？



マイクロプラスチック、地球温暖化、水質汚濁などが原因で、海産物が死んだり、魚の捕れる時期（旬）が変わったりするなど、海は影響を受けています。また、むやみに魚を獲ってしまうことを続けると、マグロなどが食べられなくなると指摘されています。魚介類を買うときには、MSC 認証（持続可能な漁業で獲られた水産物）のついたものを探してみませんか。



SDG-17 パートナーシップで目標を達成しよう

企業、市民、自治体、行政との連携を

SDGs の目標達成に向けて、一人ひとりが取り組むことが大切です。その一方で、一人では解決できない課題もあります。だからこそ企業、市民、行政がそれぞれの役割を果たすと共に、互いの強みを活かし合い、連携・協働することで、新たな可能性が生まれます。

ぜひあなたのお考えやご意見を！
聞かせてください



Facebook



Instagram

3-3. SDGsカルタの制作とワークショップでの活用

(1) カルタ制作に至った経緯

楽しみながら、でも気づきを与えられる仕掛けはないか→カルタ

(2) カルタの制作方法

- 目標ごとに事例を探す
- 五十音から始まる短い文章を作る
- 現在の事例を探し、短い説明を書く
- 世界と日本の現状がわかるデータをグラフ化

(3) 今後の展開

- 外国語バージョンのカルタの制作
- 児童館や小中高校でのSDGs学習に活用

これって男女平等？育児休暇



これって男女平等？育児休暇

5 ジェンダー平等を
実現しよう



育児休暇を取れている割合は女性で83%、男性で7%。男性取得率が極端に少なく、まだ育児は女性がするものだという考えが残っています。

育児休暇を取得しなかった理由(平成29年度)





部長！この会社の働き方改革、

どうですか？



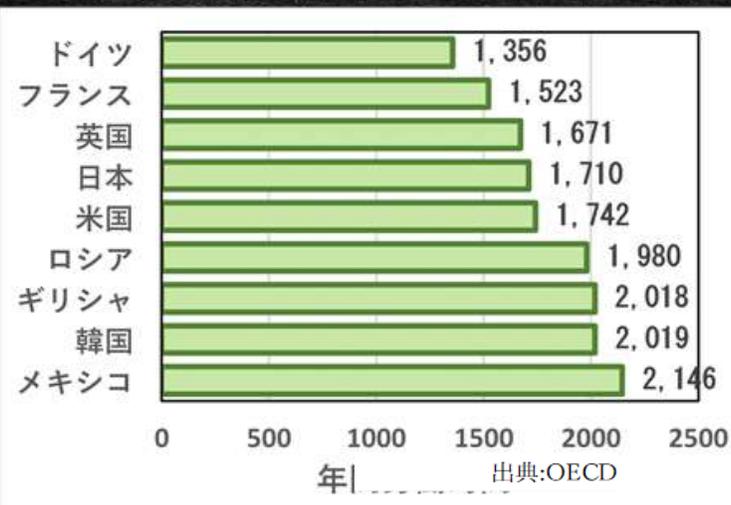
8 働きがいの
経済成長



部長！この会社の働き方改革、どうですか？

OECDの調査によると、加盟国で最も労働時間が長いのはメキシコ。日本は1,710時間と、最も少ないドイツよりも350時間長くなっています。

「働き方改革」は、すべての企業が取り組むべき経営課題です。長時間労働の削減、労働効率の改善、柔軟な働き方を目指しましょう。

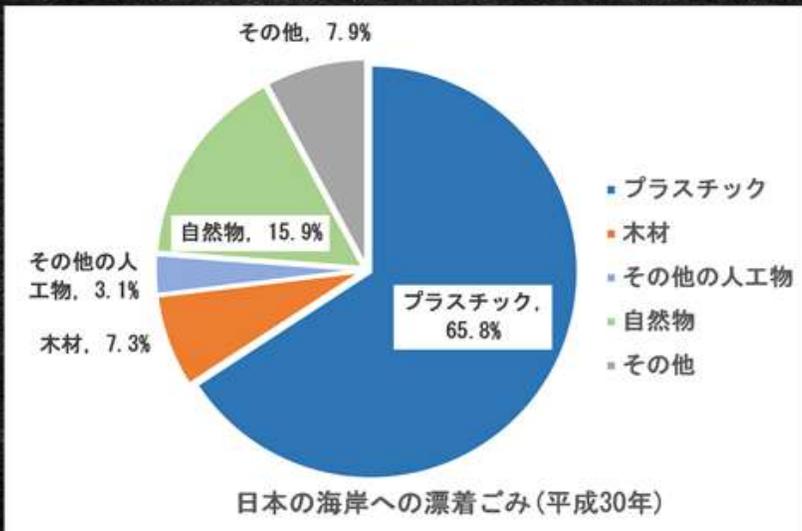


なくそう海洋汚染、
守ろう海の生き物



なくそう海洋汚染、守ろう海の生き物

海は人間の生活に大きな影響を与えています。現在年間約 800 万トンの海洋プラスチックごみが発生し、2050 年には、海洋生物の重さよりも海洋プラスチックごみの方が重くなることも指摘されています。日本の海岸に漂着するごみ(個数で測定)の 2/3 はプラスチックです。使い捨てプラスチックの使用をやめ、海の生き物を守ることは、人間の未来を守る事でもあります。





非核三原則、人類の平和のために再確認を

世界で唯一の被爆国である日本では、1967年12月11日に当時の総理大臣佐藤栄作が、「核兵器を持たず、作らず、持ち込みも認めない」とする非核三原則を国会答弁し、1971年11月に国会決議されました。1990年にはウクライナも同様の原則を発表しています。

一方で、世界には約15,000発の核兵器が存在しています。人類の恒久的な平和を実現するためには、世界中が核兵器の廃絶に取り組みることが必要です。

国名	核弾頭総数	NPT	CTBT
ロシア	6,490	批准	署名
アメリカ	6,450	批准	批准
フランス	300	批准	批准
中国	280	批准	署名
イギリス	215	批准	批准
パキスタン	140-150	未	未
インド	130-140	未	未
朝鮮民主主義人民共和国	10-20	脱退	未
イスラエル	80	未	署名

出典:Wikipedia



非核三原則、
人類の平和の

ために再確認を

ピースフルな社会へ、はいピース

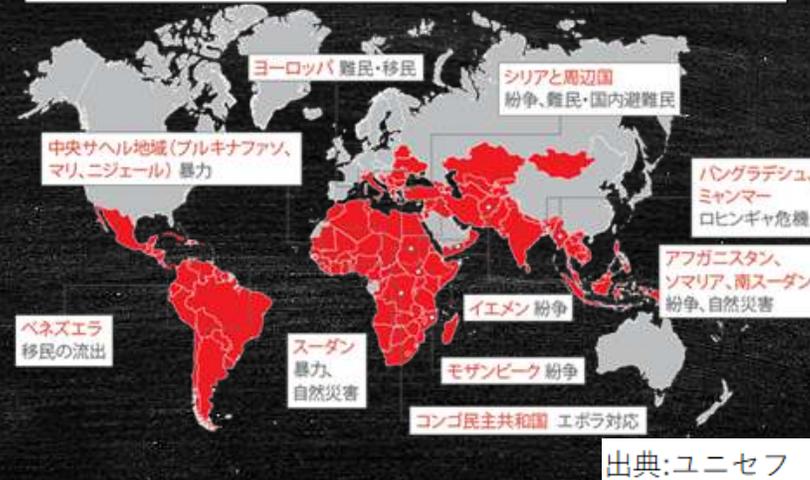


16 平和と公正を
すべての人に



ピースフルな社会へ、はいピース

世界中で今も戦争や紛争が絶えません。ユニセフの調査によると、2015年には約5,000万人の子どもが故郷を奪われ、うち約2,800万人は紛争が原因でした。紛争の影響を受けている人は15億人以上にのぼります。平和で包括的（inclusive）な社会を創造することは人間にとってとても重要です。





色々な場所で
「人気投票実施中」
↓
投票者の自分事へ

岩倉市での活動 広報いわくらへの記事作成への協力

- 岩倉市市民活動支援センターの登録団体から抽出
- 市の担当者と学生が企業団体を訪問してヒアリング
- 記事作成
- 岩倉市の確認をへて記事に



みんなのSDGs インタビューに行ってきました!

6月号で募集した「みんなのSDGs」。応募のあった企業・団体に日本福祉大学の学生と一緒にインタビューに行ってきました!!インタビュー内容(第1弾)を報告しますので、皆さんも身近に取り組みられているSDGsのことを知って、地球に良いことをしていきましょう!第2弾の11月号もお楽しみに!

桜井工業株式会社

岩倉市内の水道管の布設工事などを行っている企業
インタビュー: 日本福祉大学3年 西森元紀さん

SDGsの取組

2013年から会社の敷地内に募金型自動販売機を設置し、売上の一部を途上国に寄付することで、生活に欠かせない水を届ける事業に協力しています。この活動はSDGsの前身であるMDGsの頃から行ってきてSDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」に繋がっています。また、災害発生時には、迅速な復旧活動を行う協定を岩倉市などと結んでいて、SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」に繋がっています。

インタビューの感想

社長自らが進んでSDGsに取り組むことにより、社員にもその意識が浸透していくし、募金型自動販売機のようにコツコツ継続的に続けていく事が大切だと感じました。自動販売機を利用することで、義務感ではなく無意識に募金活動に参加出来るのが良いと思いました。



▲桜井工業株式会社 代表取締役 櫻井秀樹さん

Mugi ストローライフ岩倉

土から生まれ土に還る循環型のエコなストローを作り、環境問題を考える団体
インタビュー: 日本福祉大学4年 内藤美希さん

SDGsの取組

ストローにするために、麦の茎が丈夫になるように育てられているため、食器と同じように洗い乾燥させることで何度も使うことができます。不要になった際は、土に埋めることで肥料となり土に還るため、環境に良い素材でできています。また、麦を栽培することによって、米を栽培していない時も畑の状態を保つ役割を担っています。これらの活動は、SDGs目標14・15「海と陸の豊かさを守ろう」に繋がっています。

インタビューの感想

この取り組みを始めたことをきっかけに、他にできることはないか考えるようになったと聞き、私も環境に良いものを使う等できることから一つ一つ取り組んでいこうと思いました。環境に良い麦ストローを実際に使ってみて、プラスチックのストローと使い心地が変わらなかったのが、このインタビューや広報紙での紹介をきっかけにもっと広まるのではないかなと思いました。



▲Mugi ストローライフ岩倉 会長 林智光さん



みんなのSDGsの紹介!

6月号で募集した「みんなのSDGs」。9月号に続き、日本福祉大学の学生と行ったインタビューの内容を報告(第2弾)します。また、同時に募集していた個人版「みんなのSDGs」も紹介します。身近に取り組みされているSDGsを知って、みんなでSDGsに取り組んでいきましょう!第3弾の11月号もお楽しみに!

NPO 法人はんどいんはんど

岩倉を拠点に訪問型病児保育を行っている団体
インタビュー: 日本福祉大学4年 岩崎右城さん

「病児・病後児保育がなくなる社会を目指す!」
このようなゴールのため、岩倉市内外で活動しているのがNPO法人はんどいんはんど。

私たちの身近には子育てが「孤」育てになってしまっている現状があります。突然の病気、発熱の子どもたちの保育・保護者をケアする子育て支援など、サポートを行っています。
本来であれば、社会や企業が「子育て」を理解し守っていかねばならない課題です。一人ひとりが認め合い理解しあえる社会であれば「孤」育てになることはありません。

これらの取り組みは、SDGsの健康と福祉やジェンダー、働きがい、地域づくり、また、貧困問題、他機関とのパートナーシップなどの目標達成につながっています。身近な子育て世代に目を向けてみましょう。未来を担う子どもたちへの支援は、持続可能な社会の実現への近道の一つです。



▲NPO 法人はんどいんはんど 廣中大雄さん

個人版「みんなのSDGs」

17の目標のうち、コロナ禍ということで、家庭でもできる身近な取り組みの投稿を紹介します。

7 7. 清潔なエネルギーを

- ・電気・水道の無駄遣いをしない。
- ・車での移動を減らす。燃費のいい車に乗る。
- ・必要ないときにお湯が出ないように設定した!
- ・お米を研いだ水を調理後のフライパンを洗うのに使ってます。

12 12. つくばる

- ・食材を余すところなく使う。
- ・本当に必要な分だけ服を買う
- ・買った物は食べられる分だけ
- ・マイバッグ、マイボトルやマイボトルを使って、不要な消耗品をお断り

ご覧のように、今回ご紹介したSDGsは家計の節約にもつながるものも多いです。そう考えると取り掛かりやすいのではないのでしょうか。ぜひ一度、自分の暮らしでできそうなSDGsについて考えてみてください。

国連目標パンフで紹介

日本福祉大国際福祉開発学部
の千頭聡特任教授(65)のゼミ生たちが今年2月、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)について学生の視点で紹介したパンフレット「SDGsをもっと知ろうー私たちの暮らしから未来を見つめてー」を作成した。

学部のある愛知県東海市から「大学連携まちづくり推進事業」の補助金を得て進めるプロジェクト「SDGsを市民の合言葉に」の一環で、半年間議論を重ねてまとめた力作

SDGsを学ぼう

日本福祉大千頭ゼミ



SDGsの普及に努める千頭ゼミの学生たち(愛知県東海市の日本福祉大で)＝中根新太郎撮影

だ。17の達成目標それぞれに、目標を巡る日本の現状や課題解決のための提言など、市民に最も伝えたいことを「キャッチコピー」として掲げ、日常生活で取り組めることなど解説文が添えられている。

「質の高い教育をみんなに」の目標には、「学費が払えたら進学できたのに」のキャッチコピーがついている。国連の目標は、教育が受けられない国が少なくないことを踏まえたものだが、ゼミ生たちは国内の教育格差に着目。経済格差との負の連鎖が広がりつ

標語熟考 理解深まる

つあるとして、全ての子どもに学ぶ権利を保障していくことが社会に課せられた義務と訴えている。

作成に携わった佐々木瞳歌さん(4年)は「意見の相違もあったが、一つ一つの目標に何時間もかけて練りました。SDGsに対する私たちの理解も深まり、身近なところから始めることの大切さを認識しました」と振り返る。

プロジェクトでは、パンフレットのほか、企業などに取材したSDGs新聞やポスターも作り、市内の公共施設に配布した。今年度は啓発カルタを作る計画だ。

ゼミでは、持続可能な地域社会のあり方について研究しており、4年生はSDGsに関わるテーマで卒論をまとめる。

農業に関心があるという坂本実穂さん(4年)は、2年の時に福島県相馬市の養鶏農家に住み込んだ。循環型農業で持続可能な暮らし方を考えたいと、今年6月からは、愛知県田原市の農園で野菜の栽培や家畜の世話を体験。将来は有機栽培や無農薬の自然農に関わっていきたいという。

千頭特任教授は「17の目標達成にアプローチする方法はいろいろあるが、一人一人が責任を持って行動することの大切さを学んでほしい」と話し、ゼミ生たちが自律した社会の担い手になることを期待している。(荒川盛也)

パンフレットに記されたキャッチコピーと解説文の概要(抜粋。<>内がキャッチコピー)

- 目標6 安全な水とトイレを世界中に
△安心安全な水は豊かな自然から
私たちの使う水は木曾川から引いているように、水源は遠くの間地域に依存しています。おいしく安全な水を利用し続けるには、豊かな山や森の保護・保全に協力していくことが大切です。
- 目標8 働きがいも経済成長も
△今働いている環境は、大丈夫？
平成28年(2016年)には(国内で)1978人が勤労問題が原因で自殺に追い込まれています。働きがいと心身の健康のために、働いている環境を見直すことが大切です。
- 目標12 つくる責任つかう責任
△買う・捨てるを慎重に
日本における衣類廃棄量は年間約33億枚、まだ食べられるのに捨てられる食料は毎日大型トラック1700台分もあります。買うときは本当に必要か、捨てるときはまだ使えないか考えてみましょう。

ご清聴ありがとうございました。

千頭ゼミ生の「学び」

1 貧困をなくそう



← アフリカ等、途上国について学び

2 飢餓をゼロに



← 自宅にて賞味期限チェックを実施

3 すべての人に健康と福祉を



← 日本語教室にて、ボランティア

4 質の高い教育をみんなに



それぞれが繋がりに
あっていることや、
今後繋がりがわかる
こともある。

5 ジェンダー平等を実現しよう



← 地域にて、「小水力発電」増設の協議

← 就活フェアを通じ、学生と企業の連携

← 留学生らと枠組みを超えた協議の場

← キャンパスだけでなく、多くの地域の方・関係者と連携し、学びをする

17 パートナリシップで目標を達成しよう



16 平和と公正をすべての人に



15 陸の豊かさも守ろう



14 海の豊かさを守ろう



13 気候変動に具体的な対策を



← 地域にて、林業・里山管理の課題を調査

← ポスターにて、車移動削減の啓発活動

← 食と農の切り口から「地球一個分の暮らし」を

← U・Iターン者を増やすために、地元で調査

6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任

